



# DEN

## No.8

2012.12.28発行

作業療法を伝える — NEWS&COMMUNICATION

# 心豊かに作業療法



今回の『まんが作業療法物語』  
主人公：堀 なる子さん

高校生のときに脊髄損傷を受傷しましたが、現在も自分らしい生活を楽しんでいる女性です。

今回は作業療法を受けた体験と現在の生活の様子を語ってくださいます。



## CONTENTS

- |                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 作業療法フェスタ2012             | 15 教えて！作業療法             |
| 3 第5回作業療法一日体験              | 16 以心DEN心 — 作業療法コラム —   |
| 5 活動報告                     | 17 施設紹介 / 川島整形外科病院      |
| 6 取材ノート リレー・フォー・ライフ／げんきフェア | 18 東日本大震災 被災地の今 — 第2報 — |
| 7 まんが作業療法物語 ～脊髄損傷編～        |                         |
| 12 インタビュー / 堀 なる子さん        |                         |

# 作業療法フェスタ2012

## やってみよう！作業療法体験

8月19日(日)、イオンパークプレイス店サニークーオークで、恒例の「作業療法フェスタ2012」を開催しました。今年も650名以上の方にご参加いただき、大勢の方々と大変賑わいました。テーマを「やってみよう作業療法体験」として、4つのブースを設けました。子どもから年配の方まで多くの方々が楽しんで参加されていました。親子で楽しめる絵てがみや針金細工でのフォトメモスタンド作りのブースでは、はじめは子どもに誘われてしぶしぶ行っていたお母さんも「つい、真剣になっちゃう」と子どもたちより熱中されていました。フラッグづくりでは、普段経験したことがない子どもたちも多く、「すげー、こんなのできた」と大喜び。また、完成したフラッグを満面の笑みで振り回し、「もう一つ作りたい」など意欲的な発言も多く、とても楽しんでいる様子で、参加されていない買い物客も足を止めて覗き込むほど、笑い声であふれていました。



たくさんの方が参加してくれました



針金でかっこいい  
メモスタンドが  
できたよ♪



絵てがみ  
熱心に色塗り  
をしていますね!

夢中になる!  
熱中する!  
楽しく!

作業療法では「夢中になる・熱中すること」「楽しく行う」ことがとても大切です。それは、楽しいことを夢中で行うときこそ、私たちの「こことからだ」が最も効率よく働くからです。参加したみなさんの笑顔や夢中になっている姿をみて、作業療法のPRにつながり、普及活動としても大成功だったと感じました。

## ご来場ありがとうございました。

今年の作業療法フェスタもみなさまのおかげで盛大に終えることができましたことを心より感謝申し上げます。私たちは作業を体験することを通して、作業療法(士)がどのようにして、対象者の方々や県民のみなさまの生活や健康増進に携わっているのかを知ってもらうためにフェスタを開催しています。参加していただいた方々からは「前からの宣伝でフェスタを知っていたので、このためだけにパークプレイスに来たんです。楽しみにしていました」という声が多く聞かれ、作業療法(士)が浸透してきていることを肌で感じることができました。また、見学されていた方に感想をうかがうと、「このような活動がリハビリの一つとして用いられていることに驚いた」、「作業療法士を子どもに勧めたい」と言われていました。来年も更に啓発・普及活動に取り組み、より多くの方に作業療法(士)を伝え、県民のみなさまの生活と、健康の増進に寄与していきたいと思えます。来年のご参加を心よりお待ちしております。

(広報局 事業部 安部愛美)



## 第5回

# 作業療法一日体験

当協会主催の高校生を対象とした『作業療法一日体験』は今年で5回目。会員が所属する51の病院・施設の協力のもと、7月から8月にかけて102名の高校生に作業療法を体験してもらいました。

体験終了後のアンケートでは、「作業療法士になりたい思いが強くなった」「やりがいのある仕事だと思った」などの感想が聞かれ、「今後、作業療法士を目指したいと思いますか」という質問には、42%の方が「ぜひ目指したい」と答え、その理由として「作業療法に感動した」「実際に見たことでなりたいたと思った」との回答がありました。

今回も『作業療法一日体験』が作業療法士を目指してもらうためのきっかけ作りとなっていると改めて実感することができました。今後も、更に本事業の定着を図り、将来を担う作業療法士の発掘と育成に貢献していきます。



片手用の自助具  
台つき爪切り体験中!!



### 井野辺病院で体験した高校生の感想

(アンケートより抜粋しています)

- ◆今までは少し悩んでいたけど、現場の話を聞いたり見たりすることができたので、作業療法士になり、少しでも多くの人を支えられる人になりたいと思いました。
- ◆患者さんの日常生活に直結している、すごくやりがいのある仕事だと思いました。ぜひ目指したいと思います。



手の機能検査を体験中です!

### 百聞は一見にしかず

8月3日に2名の高校生が来てくれました。『百聞は一見にしかず』ではありませんが、初めは緊張していた高校生も治療場面の見学や治療機器の体験学習を行っていくうちに次第に笑顔と質問が増えました。特に片手でできる自助具や治療機器の体験では「すごい!」「なるほど!」など驚く言葉が多く、作業療法(士)により興味を持った等の感想をいただきました。今回の「作業療法一日体験」を通して、少しでも作業療法(士)に興味・魅力を感じていただけたと思います。

井野辺病院 作業療法士

岸 本 周 作

## 畑病院で体験した高校生の感想 (アンケートより抜粋しています)

- ◆人としての生活をサポートすることができる仕事だと感じました。



## 進路選択の参考にして欲しい

当院でも2名の高校生に実際の作業療法場面を見学・体験していただきました。体験では対象者の方と話をしたり作業療法士に質問をしたりするなど、興味を持ち理解しようとする様子がうかがえました。参加した高校生の一人は、作業療法士養成校への入学希望者で「更に作業療法士になりたいという気持ちが強くなった」そうです。

施設によって違いがあるとは思いますが進路選択の参考にして欲しいと思います。この経験を通して少しでも作業療法に対する理解が深まり、魅力ややりがいを感じてもらいたいと思います。

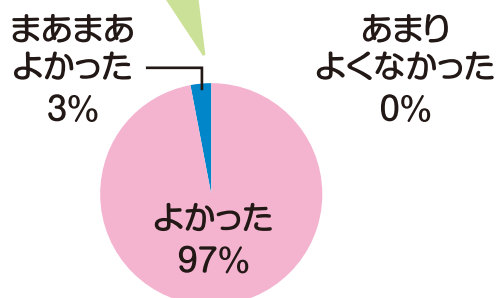
畑病院 作業療法士 安部 愛美

動かしにくくなった手を動かしやすいようにする訓練を見学しています

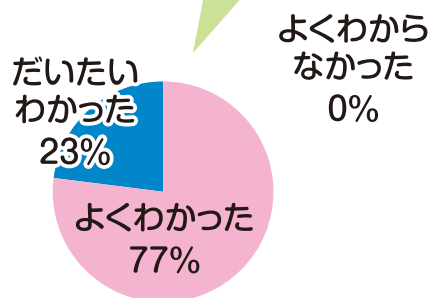


## 体験終了後のアンケート結果

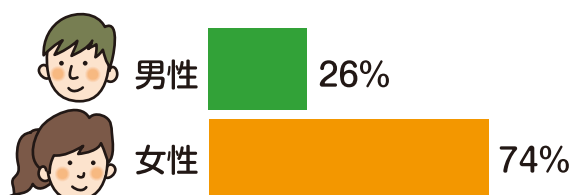
### 作業療法体験はどうでしたか？



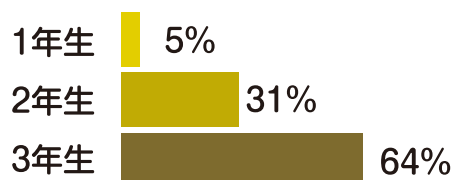
### 作業療法士の仕事内容はよくわかりましたか？



### 参加者の男女比率



### 参加者の学年比率



# 活動報告 2012年6月 ▶ 2012年9月

## 啓発普及活動

### リハビリテーション相談窓口 設置

日 時：平成24年6月16日(日) 9:30~12:00  
場 所：大分県作業療法協会ビル1階  
内 容：リハビリテーション相談、パンフレットの配布 等

### 第5回作業療法一日体験 県内高校生：102名

日 時：平成24年7月2日(月)~8月31日(金) **3~4ページで詳しく**  
場 所：会員所属施設 51施設  
内 容：高校生を対象に作業療法体験や見学等を通じ、作業療法(士)についての理解を深めてもらう

### 作業療法フェスタ2012 来場者数：650名

日 時：平成24年8月19日(日) 10:00~15:00 **1~2ページで詳しく**  
場 所：イオンパークプレイス大分店  
内 容：フォト・メモスタンド作り、フラッグ作成、相談窓口、福祉用具展示 等

### 大分県保健医療団体協議会主催 第13回げんきフェア参加

日 時：平成24年9月9日(日) 11:30~14:30 **6ページで詳しく**  
場 所：豊の国健康ランド  
内 容：フォト・メモスタンド作り、作業療法相談コーナー、パンフレット配布

## 【他団体主催事業】

### 大分県シルバー人材センター連合会主催 平成24年度 訪問介護員養成研修(2級課程)講師派遣

日 時：平成24年6月22日(金)  
場 所：大分地区 (大分工業会館 3階 大ホール)  
講 師：高森 聖人 (会長/(株)空色)

日 時：平成24年7月19日(木)  
場 所：宇佐地区 (さんさん館 2階 会議室)  
講 師：尾山 泰宏 (宇佐高田支部長/宇佐病院)

日 時：平成24年8月17日(金)  
場 所：豊肥地区 (エイトピアおおの 2階 第一会議室)  
講 師：中村 雅之 (大野支部長/ニコニコ銘水苑)

日 時：平成24年9月20日(木)  
場 所：日田地区 (日田市総合体育館 図書視聴覚室)  
講 師：伊賀 信也 (日田玖珠支部長/聖陵岩里病院)

### 公益財団法人 日本対がん協会主催 **6ページで詳しく** リレー・フォー・ライフ in 大分 2012 参加

日 時：平成24年9月15日(土)13:00スタート、16日(日)13:00ゴール  
場 所：大分スポーツ公園 大芝生広場  
内 容：チャリティー参加、フラッグ作成

## 研修会等

### 【教育事業】

#### 新卒者研修会 参加者数：79名

日 時：平成24年6月3日(日) 9:30~16:20  
場 所：大分県労働福祉会館 ソレイユ 3階 牡牛  
内 容：①当協会の歴史・組織について  
講 師：高森 聖人 (会長/(株)空色)  
②組織への参加とは  
講 師：衛藤 博文 (理事)  
③日本作業療法士協会 生涯教育制度について  
講 師：洲上 祐亮 (教育研修部副部長/湯布院厚生年金病院)  
④部局・支部紹介・関係諸団体からのお知らせ  
⑤当協会入会について

#### 現職者共通研修Ⅰ 参加者数：54名

日 時：平成24年7月22日(日) 9:30~15:00  
場 所：大分県労働福祉会館 ソレイユ 6階 つばき  
内 容：①作業療法生涯教育論  
講 師：工藤 友治 (教育研修部長/大分下郡病院)  
②職業倫理  
講 師：山本 勝一 (常務理事/オアシス宇佐)  
③作業療法における協業・後輩育成  
講 師：浅倉 恵子 (諏訪の杜病院)

#### 現職者共通研修Ⅱ 参加者数：69名

日 時：平成24年8月26日(日) 9:30~11:30  
場 所：大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科棟  
内 容：事例検討、事例報告  
コーディネーター：工藤 友治 (教育研修部長/大分下郡病院)  
姫野 慎太郎 (衛藤病院)  
秋元 祐布子 (浜脇記念病院)  
山崎 翔太 (明野中央病院)

#### 研修会講師養成道場① 参加者数：10名

日 時：平成24年7月26日(木) 19:30~21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：伝える法則  
講 師：佐藤 孝臣 (副会長/(株)ライフリー)

#### 研修会講師養成道場② 参加者数：10名

日 時：平成24年8月9日(木) 19:30~21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：講義プラン作成方法  
講 師：甲斐 裕介 (企画調整部長/藤華医療技術専門学校)

#### 研修会講師養成道場③ 参加者数：8名

日 時：平成24年8月23日(木) 19:30~21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：プレゼンテーションの作り方  
講 師：佐藤 暁 (常務理事/井野辺病院)

#### 研修会講師養成道場④ 参加者数：10名

日 時：平成24年9月6日(木) 19:30~21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：個人講義発表会

#### 研修会講師養成道場⑤ 参加者数：10名

日 時：平成24年9月20日(木) 19:30~21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：発表会を終えてのフィードバック  
コーディネーター：佐藤 暁 (常務理事/井野辺病院)  
甲斐 裕介 (企画調整部長/藤華医療技術専門学校)  
工藤 友治 (教育研修部長/大分下郡病院)  
津留 翔子 (湯布院厚生年金病院)  
洲上 祐亮 (湯布院厚生年金病院)

#### 臨床実習指導者育成道場① 参加者数：9名

日 時：平成24年9月13日(木) 19:30~21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：講義①「臨床実習とは」  
講 師：後藤 英子 (常務理事/大分リハビリテーション専門学校)  
講義②「近年の学生の傾向 臨床実習における最低基準(養成校の立場から)」  
講 師：藤原 肇 (常務理事/藤華医療技術専門学校)

#### 臨床実習指導者育成道場② 参加者数：9名

日 時：平成24年9月27日(木) 19:30~21:30  
場 所：大分県作業療法協会ビル  
内 容：講義①「頼もしい後輩を育てるために 臨床の立場から作業療法の学生の傾向を語る」  
講 師：篠原 美穂 (湯布院厚生年金病院)  
講義②「臨床実習指導方法論Ⅰ」  
講 師：梅田 大樹 (衛藤病院)  
演習 事例検討Ⅰ(受講者個々に事例を提示)

### 【学術事業】

#### 第30回研修会「生活行為向上マネジメント」 参加者数：123名

日 時：平成24年6月24日(日) 10:00~16:00  
場 所：ビーコンプラザ  
講 師：長谷 麻由 (国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部 助教)  
内 容：生活行為向上マネジメントの総論、事例を通してのグループワーク

## 大分県保健医療団体協議会 第13回げんきフェア

9月9日(日)、大分県保健医療団体協議会主催による「第13回げんきフェア」が豊の国健康ランド3階イベントルームで開催されました。(同協議会は県内の保健医療に関わる10の職能団体で構成されています。)

げんきフェアでは、各団体の連携はもとより、県民に対して広く健康と福祉の増進に向けての情報発信を行うことや医療の中で働く各職種の役割についての啓発活動を行っています。今回のげんきフェアでは約100名の参加がありました。その中で当協会は、針金を使ったカード立てづくりを通して作業療法を体験できるブースを設けました。大勢の親子連れで賑わい、和やかな雰囲気の中で行われました。単に楽しい体験の場だけではなく、その体験した内容が作業療法の治療、援助としてどのように用いられているのかを説明し、参加者に作業療法の魅力を伝えることができました。来年度もこのイベントの開催を予定していますので、作業療法に関心のある方もない方も、ぜひ参加してみてください。



## 公益財団法人 日本対がん協会 リレー・フォー・ライフ 大分 2012

9月15(土)・16日(日)、大分スポーツ公園の大芝生広場にて『リレー・フォー・ライフ』が開催されました。当日は、がん体験者・ご家族・友達・医療関係者など多くの参加があり、参加者は約5000人(うち当協会関係者51名)、寄付金は386万3,286円となる盛大なイベントとなりました。

今回は台風接近という悪天候の中での開催となり、終了時間が繰り上げられました。しかし、その中でどのグループも大会終了までともに同じ道のりを歩き続けました。

当協会のテント内では、フラッグ作り体験を行い、みなさんとの交流が深まりました。中には自分で作ったフラッグをパタパタと振りながら歩く方もいらっしゃいました。このようなテント内での企画やステージでの出し物など、様々な活動を共有することで、みんな同じ意思を持つことができたのではないかと思います。

『がんになっても希望を持って生きていける社会』の実現を目標に、『リレー・フォー・ライフ』への参加を通して、これからも作業療法士としてどのようなことが行えるのか、ともに考えていきたいと思います。

『リレー・フォー・ライフ』とは、1985年にアメリカ・ワシントン州シアトル郊外でアメリカ対がん協会のゴルディー・クラット医師が始めたイベントです。プログラムとして「サバイバーズ・ラップ」(がん体験者が元気に歩く初めの一周)や「ルミナリエ」(がんで亡くなった人たちの霊を慰め、今がんと向き合っている人々の勇気を讃え、一人ひとりのメッセージを記した紙袋にキャンドルを灯す)などが開催されました。



# おんが 作業療法物語

## ～ 脊髄損傷編 ～

工夫を凝らすことで、よりよい生活に



Aさんは高校の体操部の練習中に  
段違い平行棒から転落し、病院に搬送されました

体が全然動かない  
どうしよう…



【補足】 手首や肘を曲げることはできますが、指は動かず、物を握ることができません

骨折した頸椎を固定する手術や、肝炎を患ったこともあり、  
Aさんは9カ月間も寝たきりの状態でした



状態が落ち着いた頃、  
リハビリテーション病院に転院となりました



今度、  
バスケットボールの  
試合に出るんだって？

ガラガラ



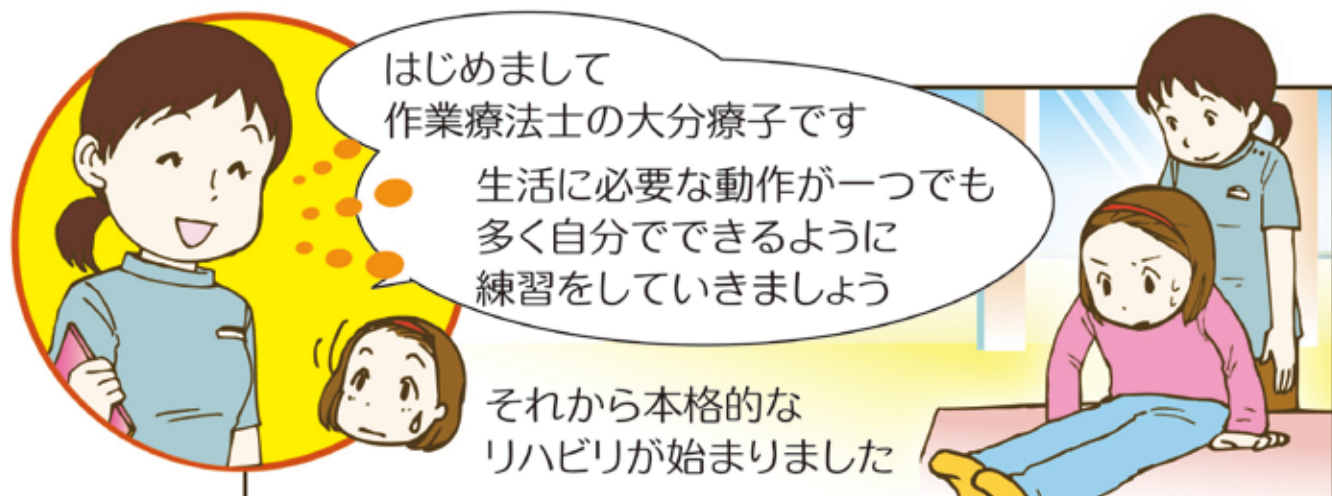
ガーツ

うん！今、一生懸命  
練習してるんだ



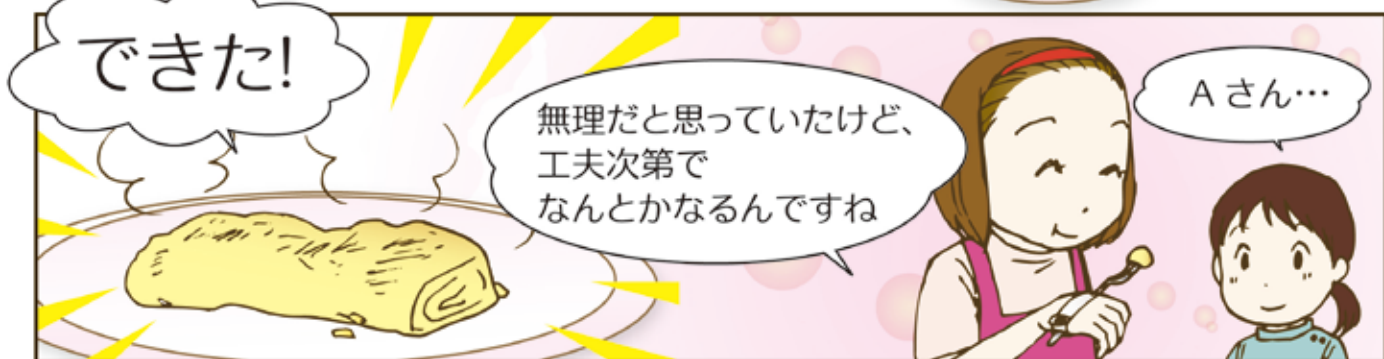
私もあんな風にな  
れるのかなあ？



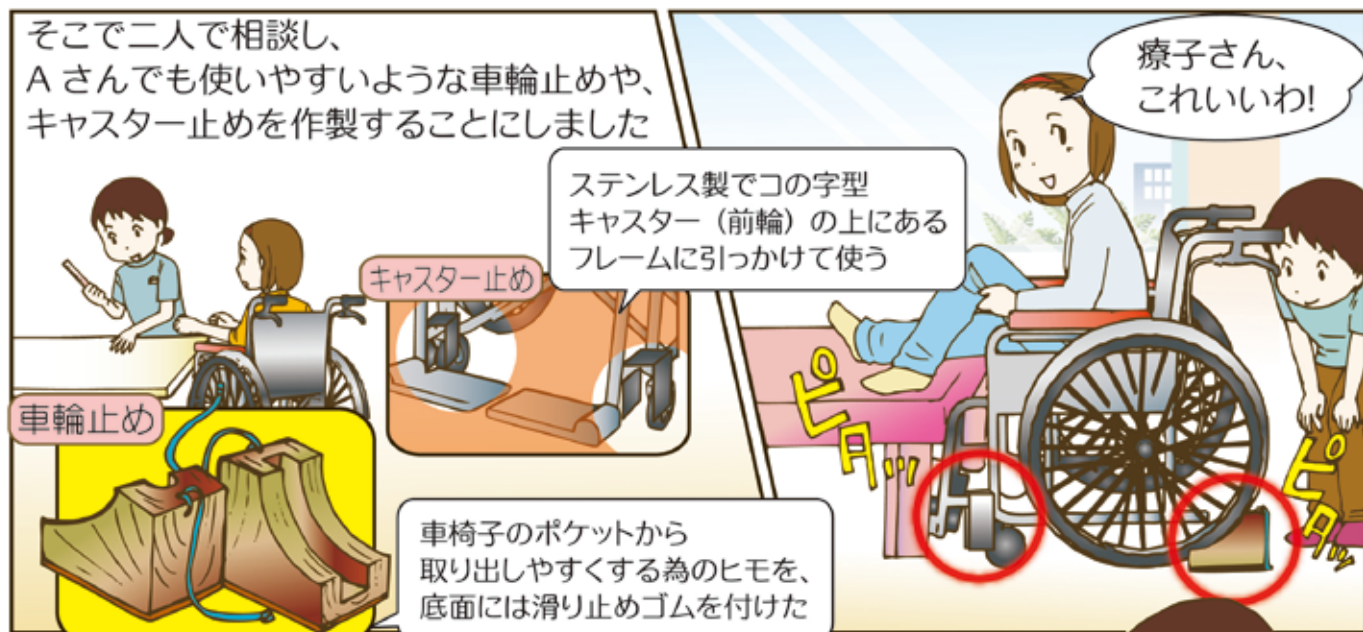




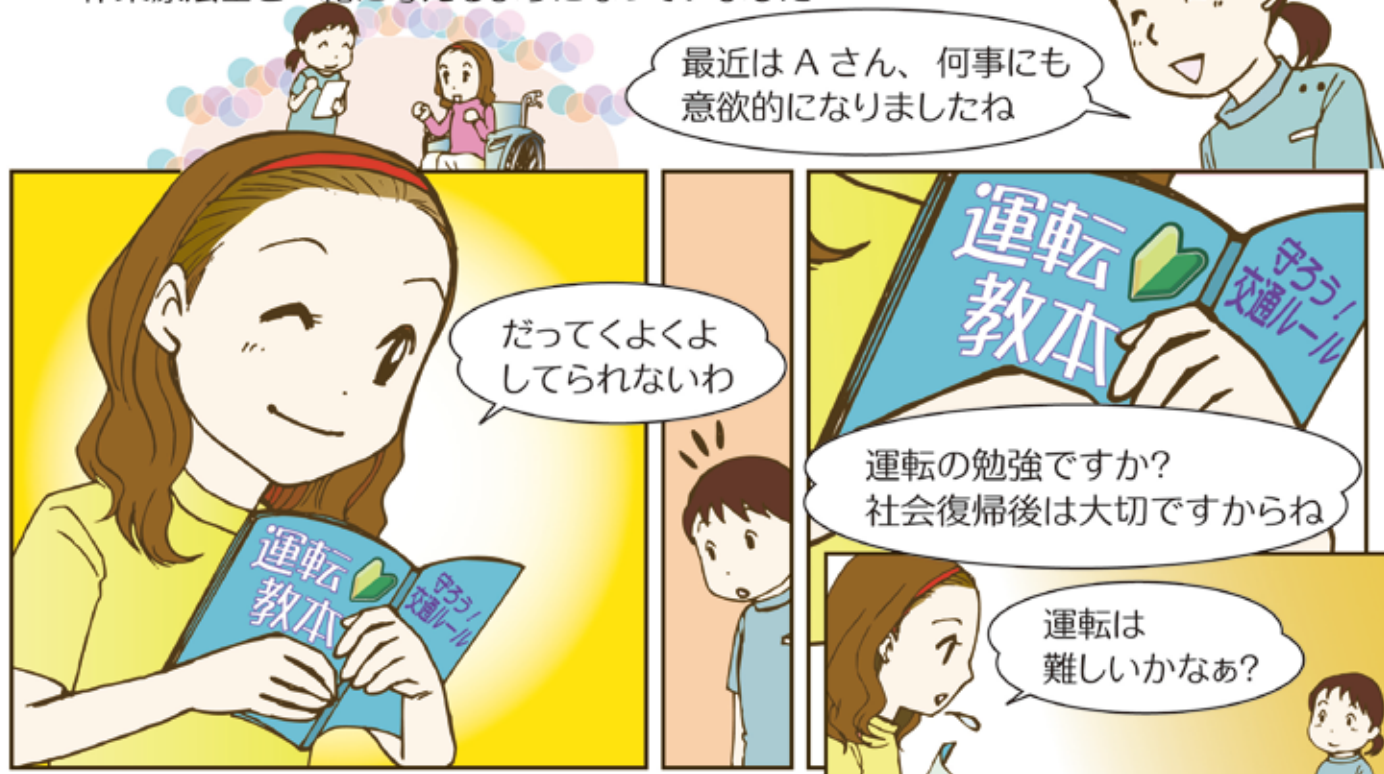
女性の A さんにとって、調理の練習も大切なリハビリの一つです



作業療法では、残された機能を活用して日常生活の動作を可能にするために、対象者の状態にあったリハビリや動作指導、自助具や装具の作製、福祉用具の選定、環境調整を行うことで、生活の援助を行っていきます



いつしか A さんからもアイデアをだすようになり、  
作業療法士と一緒に考えるようになっていました





高校生のときに受傷し、突然車椅子の生活になったAさんの精神的なショックは図り知れません

しかし、作業療法を通して「できることが広がっていく」経験をしたことは、Aさんが立ち直るきっかけの一つになりました

退院後もAさんは、結婚、出産、子育てを経験し、また趣味で始めた絵画でも個展を開くなど、いきいきと生活しています



今回のまんが作業療法物語は、実話をもとに作成しています。次ページに、ご本人と担当作業療法士へのインタビューを掲載しています。

## 私の原点は作業療法。 工夫して生活していくことを 教わりました。

堀 なる子 さん  
*Hori Naruko*



今回、『まんが作業療法物語』は、実話をもとにして作成しました。主人公として登場していただいた堀なる子さんと、当時作業療法を担当していた渡邊千鶴子氏に当時の想いを聞いてみました。

### Q 受傷されたときはどんな気持ちだったのですか。

高校時代体操部に所属しており、段違い平行棒で競技練習中の事故でした。転落してすぐ全身の力が抜けていくのを感じ、体が動かないことに気付きました。それから、9ヶ月間は手術や治療のため、ほぼ寝たきりの状態でした。何が起きているのか、これからどうなるのか全く分からず不安で仕方なく、周囲に心配かけまいといつも作り笑いをしていました。

### Q. 作業療法が始まったときのことを教えてください。

当時はまだ自分の置かれている状況を受け入れることができず、辛かった思い出ばかり蘇ります。声をかけられても笑おうとしない私に対し、毎日病室に顔を出し、リハビリ室へ誘ってくれたのが作業療法士の方やスタッフのみなさんでした。リハビリ室に行くと、私と同じような障害を持っている患者さんがたくさんいらっしゃいました。一生懸命リハビリに励んでいて、生き生きとしている患者さんを目の当たりにして、少しずつ自分の状況を受け入れていきました。病院スタッフの方や患者さんなどみなさんに支えられて、あの時期を乗り越えることができたと思います。

初めて自助具を渡された時、「工夫次第で何でもできる精神」を教わりました。いまだに困ったときには「どうにかならないかな」と試行錯誤して解決しています。



▲住宅改修や道具の工夫により、家事をこなす堀さん

**Q. 退院後、新しい家を建てていらっしゃいますが、そのときのお話を聞かせて下さい。**

退院してしばらく住んでいた県営住宅での車椅子生活では、バリアフリー住宅で環境が整っていましたが、生活のしにくさも感じました。その経験があったからこそ、結婚し新居を建てることになった時、私が一人でも困らないようないろんな工夫をしたいという構想がたくさんありました。ただ「バリアフリー」なんて言葉も世間に普及していない時代、建設会社にうまく伝えることができず設計の段階から作業は難航しました。そんな時、作業療法士の方が現場に来てくれ、建設会社の方と専門的な言葉で分かり易く、やり取りしてくださいました。その成果あって、台所、お風呂、トイレどれも私に合ったものができ上がりました。

**Q. その後、結婚生活や出産など様々なことに挑戦していますね。**



▲堀さんが描いた作品

環境も整い、リハビリの成果もあって掃除、洗濯、料理などの家事もすべてこなせるようになりました。けれど結婚、出産、子育てなどその後も戦いでした。特に出産は、日本で成功例がなく、海外でも3例中2例は失敗という厳しい状況で、自分の命と引き換えになるかもしれないと言われたほど危険を伴うことでした。ただ、このままでは終わりたくない、自分の生きてきた証を残したいと強く願っていたので、怖くはありませんでした。

絵と出会ったのは、20代の後半です。「何かしないと」と焦りを感じていたとき、入院中、作業療法で何にでもチャレンジしたことを思い出しました。すぐにタウンページで思い当たる所に手当たり次第電話をしました。そんな中、ボランティアで基礎デザインを教えて下さる方に出会いました。実際に絵を描き始めたのは、40歳過ぎてからで、描き続けるうちに個展を開けるまでに作品が増えていきました。このことを母はすごく喜んでくれ、母の喜ぶ姿を楽しみに絵を描き続けました。

**Q. 今後の展望を教えてください。**

自律神経失調症や排泄コントロールは今でも戦いです。だからこそ、食生活に気をつけ、できる家事はこなしていく毎日の生活こそが、リハビリテーションだと思っています。そういった意味でも、作業療法で教わったことは私の生活には欠かせないものばかりです。年を追うごとに体力が落ちていくことも感じています。これからも、人生ぎりぎりまで自分でできることは人に頼らず生活したいと思っています。後は、これまでお世話になった方々に恩返しできたらいいなと思います。



作業療法を担当していた  
渡邊千鶴子氏にお聞きしました。

**Q 堀さんを担当した当時の思いをお聞かせ下さい。**

患者さんの「意欲」を引き出し、行動に変容させることはとても重要であり、難しいことです。堀さんに初めて会ったときは、まだ、私の臨床経験は1年くらいでした。脊髄損傷、両手足麻痺の方を担当するもの、若い同年代の方を担当するのも初めてでした。文献を探し、先輩理学療法士(当時、作業療法士は私1人でした)に聞いたりしながらリハビリを進めました。

しかし、迷いはなくなりました。一人ではできない身の回りの動作を1つずつ「自立」に導くことが目標で、課題は沢山あったからです。



**Q どんな作業療法を行いましたか？**

ズボンや靴下の着脱、排泄、入浴……。これらの動作の自立に向けたリハビリと併行し、基本となる車いすの乗り移りに取り組みました。すべて彼女の希望でした。その後も彼女の希望を支援し、見通しがついたら「次はこれをやってみましょう」と私が提案する。まさに二人三脚です。

この関係で、衣服のことから調理・洗濯、スポーツ、車の運転など課題は尽きることがありませんでした。今思うと、患者さんの気持ちにより添う作業療法だったのかな？ いやいや、なりたい自分を持っていて意欲的だった彼女に、私が助けられていたのです。彼女の前向きな生き方に教えられることが多く、感心し、「私もやるぞ」とエネルギーをもらいました。

特別なことをしたのではなく、その時に必要な対応をしていただけで、退院後の生活においても困ったことは相談にのる関係が当たり前でした。しかし、それは作業療法士という職業に就いていたからだと思います。生活を支えることを仕事とする作業療法の中にいたからこそ、そこに「在る」人々と関係を築くことができたのです。作業療法を介して、彼女は生活に、私は職業に生きがいや価値観を見いだすことができたのです。職業は自己の能力を発揮し心理的な満足を得る源であると言えますが、私は作業療法士という職業に出会えたことに感謝しています。



▲当時のことを振り返る堀さんと渡邊氏

PROFILE

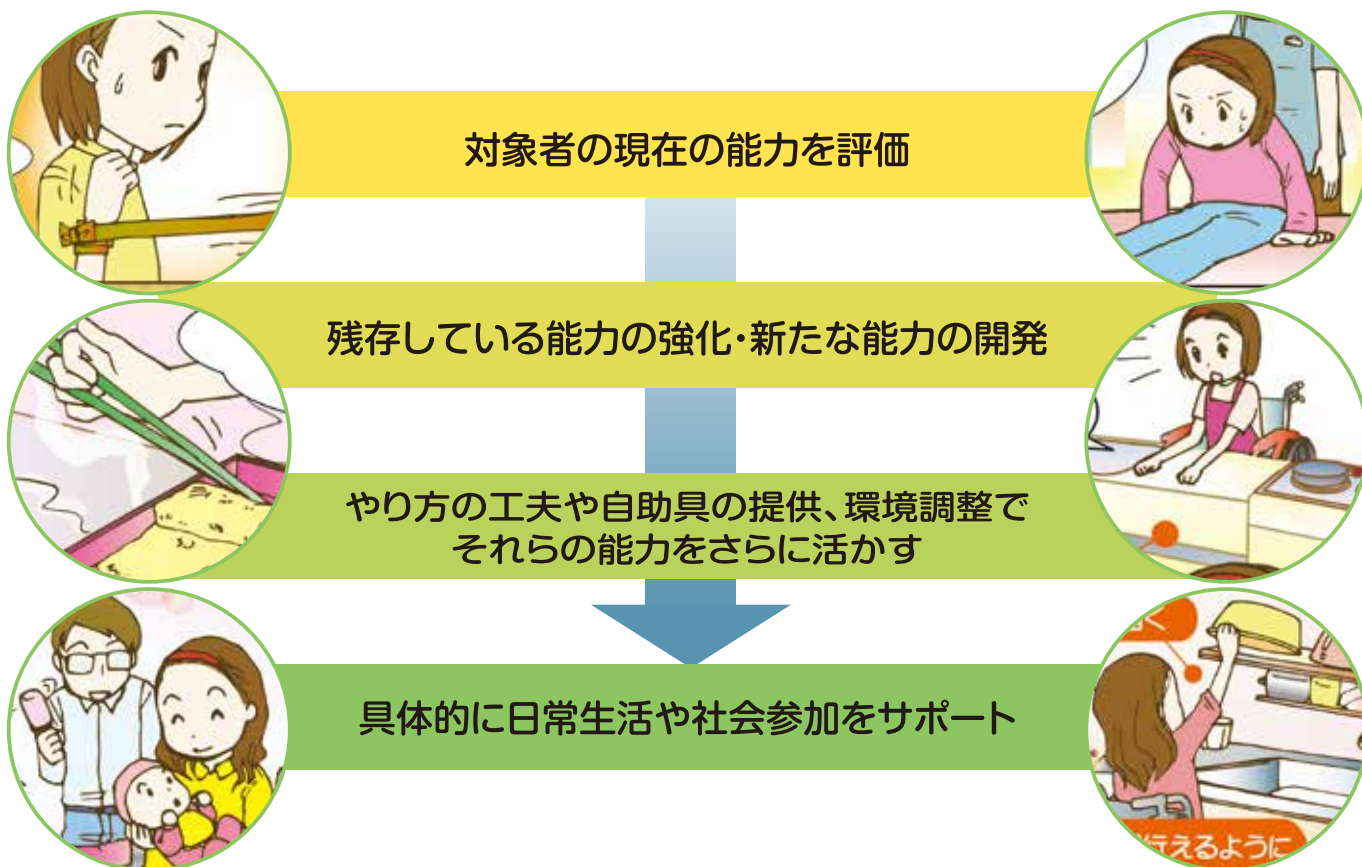
**堀 なる子さん**

佐賀県で生まれ、高校生の時に脊髄損傷を受傷。リハビリを行うため別府リハビリテーションセンターへ入院。そこで御主人と出会い、結婚。現在も、県内に在住し主婦として家族を支えている。



## 作業療法士は、一人ひとりの能力を 最大限に引き出すプロです。

今回のマンガの主人公のように、病気や事故で起こった障害だけでなく、加齢に伴う身体・認知機能の衰えや心の病気など、どんな障害に対しても、その方の潜在能力を見出して最大限に引き出すのが作業療法です。



### 悩んだらご相談を

作業療法士は生活支援のプロです。たとえ心身の機能が低下していても、対象者一人ひとりの能力に合わせた方法を一緒に考え、日常生活だけでなく趣味、仕事、家庭での役割の獲得を支援します。



## 作業療法の“アート”と“サイエンス”

大分岡病院 総合リハビリテーションセンター

山 田 康 二



20数年前、作業療法士(以下、OT)養成学校へ入学し、約3年間詰め込んだ知識を持って右も左もわからず臨床実習へ飛び込んだのは昨日のことのようです。現場で教科書には載っていない現象に戸惑いました。機械を扱うのであれば「構造と機能」を理解すればよいのですが、人と向き合う職種のOTでは「構造と機能」に「心」と「その人にとっての意味ある作業」が加わることを先輩OTの姿から学びました。今回は、それを一つ紹介します。

先輩OTの担当であったBさんは関節リウマチを発症し30年、その間に股関節・膝関節を人工関節にする手術をしていましたが、痛みも強く徐々に歩けなくなり車椅子での生活を送っていました。手にも変形やこわばりがあり、薬で痛みや炎症を抑え、特に朝はつらそうで寝返りさえできず、毎日天井を眺めながら痛みと戦う日々を過ごしていたBさんでしたが、リハビリ室ではニコニコと笑顔。先輩OTを呼ぶ姿はまるで別人、そして一言、「陶芸をやりましょう」。まさかBさんからそのような言葉が出るとは…!! 学生だった私はとても驚き、感動しました。先輩OTの手際良く土を練る動作に魅せられて意欲が刺激されたのか、Bさんがいつもは痛みと変形で使わない手で粘土を丸め湯のみを作り始めました。傍で見守り、なるべく手を出さず、さりげない会話と手助けをする先輩OTとBさん…私はそこに2人の作り出す温かな空間を感じることができました。Bさんは痛みを忘れて陶芸に没頭し、その後も完成した湯のみをいつもお世話になっている病院スタッフにプレゼントするなど自分の可能性を引き出し生活していました。私はそれ以来ずっと、陶芸等の技術はもちろん、「その人にとっての作業ってなんだろう」と考え続けています。

私は今でも、先輩OTとBさんとの関わりを超えることはできていないと思っています。あれは作業療法の“アート”だと思うからです。“アート”とは芸術や美術という意味ですが、「技」という意味もあります。例えば、誰も真似ることができない画家パブロ・ピカソの独自の感性や創造性のように、作業療法には「陶芸の技」・「その人の生活を見抜く技」・「人と関わる技」のように、個人の感性や創造性豊かな多くの「技」が含まれるということです。そして、これらの「技」が集まって作られる「生活」を“サイエンス”、いわゆる科学の視点で捉えるのも作業療法です。すべてのOTが対象者との関わりの中で、常に生活の視点を持ち、その人にとっての“意味のある作業”を見出しています。

これからも、私は日々対象者へ寄り添い、“アート”と“サイエンス”を兼ね備え、対象者にとって一番近い存在になれるように自己研鑽していきたいと思っています。

社会医療法人 玄真堂

# 川罵整形外科病院



## 施設紹介

所在地：大分県中津市宮夫14-1  
電話：0979-24-0464 FAX：0979-24-6258  
診療科：整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・脳神経外科  
病床数：93床（急性期63床・亜急性期30床）  
対象疾患：骨折・変形性関節症など整形外科的疾患  
全般／脳血管疾患  
関連施設：かわしまクリニック・かわしま通所リハビリテーション  
老人保健施設のみ・かわしま訪問看護ステーション  
職員数：作業療法士 7名・理学療法士 12名・  
言語聴覚士 1名

当院は、大分県北部の中津市に位置する急性期整形外科病院です。平成12年に病院とクリニックに分かれ、病院では手術後の入院患者さんを中心に、クリニックでは保存療法を受ける外来患者さんを中心に、より専門的なリハビリを提供できるように日々研鑽しています。

病院では受傷後・術後の手のリハビリ、足・脊柱疾患の患者さんへの在宅復帰を目標とした日常生活動作の訓練、脳血管疾患の患者さんの生活を支えるリハビリなどを提供させていただいています。また、当院は北部圏域中津地域リハビリテーション広域支援センターとして、リハビリ技術支援や研修会、健康教室・転倒予防教室を各地で行っています。今年は大分県北部水害の復興支援も行いました。

「安心して住める中津」・「リハビリの地、中津」を目標に今後も頑張っていきます。



私たちがリハビリを応援します



訓練室



患者さんの作品



かわしまクリニックもよろしくおねがいします



健康教室での体操



地域の方の個別相談

安心して暮らせる  
地域を目指します

記事担当者

杉木 知武



東日本大震災

# 被災地の 今

第2報



大分県作業療法協会 副会長  
㈱ライフリー 代表取締役

佐藤 孝臣

地震と津波の直後、「原発が危ない」との情報が南相馬市の住民の方に伝わりました。1号機の水素爆発の音は、20km離れた南相馬市にも聞こえたそうです。その後、住民へは何の指示もなく、避難所を転々とし、その時の恐怖は言葉にできないものだったとお聞きしました。特に原発から20km圏内の小高区の住民は、生まれ育った場所から離れ仮設住宅での生活を余儀なくされました。

私は、仮設住宅のデイサービスで作業療法士として機能訓練のボランティアを行いました。ここは震災前小高区にあった施設で、現在は原町の仮設住宅敷地内で仮設デイサービスとして業務を行っています。職員も被災者で仮設住宅に住んでいます。利用者さんの多くは、震災前農業に従事し日々活動的に過ごされていた方です。しかし、仮設住宅での生活で仕事や地区の行事などそれぞれの役割を失い、活動性が著しく低下したことで「生活不活病」に陥っていました。そして、生活機能や運動機能の低下が、高血圧などの健康状態の悪化も引き起こしていました。この状態を防ぐには、人生の目標を持ち日々の活動性を向上することが一番です。しかし、「家に帰れても放射能に汚染され、もう農業はできない。ご先祖様に申し訳ない。原発さえなければ…」と嘆き続けている方、人生の目標や役割を失っている方々へのリハビリサービスの提供は、今までの方法論が通じない状況で自分の力量不足を痛切に感じました。そんな中でも新たに役割を見つけ強く前に進む方もいます。その方は、震災前は軽度の認知症で日中はデイサービスに通うか家でテレビを観て過ごすだけの生活でしたが、震災で息子さん御夫婦を亡くされお孫さんを育てなければならぬ状況になりました。すると、人が変わったかのごとく日々活動的に生活し「私が必ず孫を育てる」と宣言し、とても認知症だったとは思えない状態になり、仮設住宅内でのリーダー的存在になっていました。どんな危機的状態でも人間は目標と役割があれば劇的に変化することが分かり、私は人間の素晴らしい可能性を垣間見ることができました。私は、電力や雇用の問題はありますが、現在原発がほとんど稼働していなくても生活がなりたっている現状を感じると原発は何だったのか？と疑問が強く起こります。

今回の大震災は、日本人にとっては大変な悲劇であったことは確かです。しかし、そこで学んだことや人間の無限の可能性をどう未来に生かしていくか、これこそが残された我々の使命ではないかと思います。

次回は、最後の報告として「未来へ」というテーマでこの悲劇の中で未来に向かって進んでいる方の紹介をしたいと思います。



## 作業療法(occupational therapy)とは

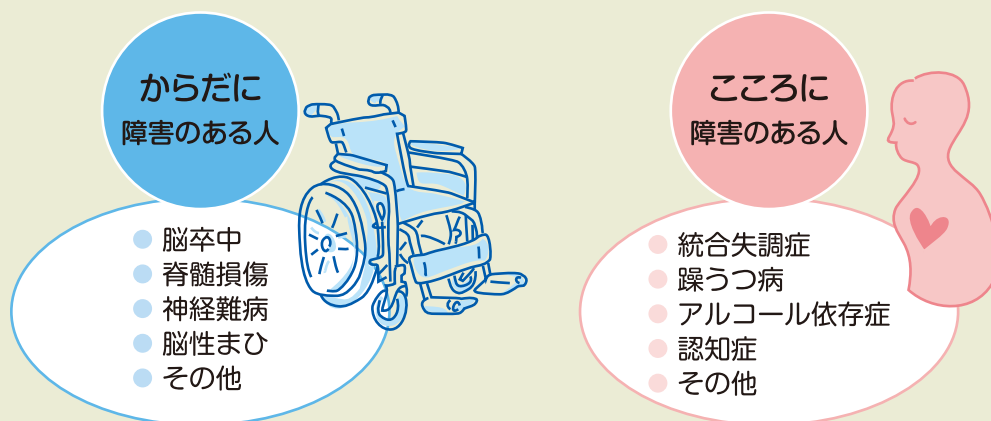
身体または精神に障害のある者、又はそれが予測される者に対して、その主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復・維持および開発を促す作業活動を用いて行う治療、訓練、指導および援助をいいます。

(一社)日本作業療法士協会・定義

## 作業活動とは

作業療法では、手工芸や木工・陶芸といった生産的なものだけでなく、日常生活上の諸動作(食事・排泄・入浴等)や仕事、学習、遊びなど、人間の生活全般にかかわるすべての活動を「作業活動」と呼び、それらを治療や訓練もしくは指導の手段として用います。

## 作業療法の対象

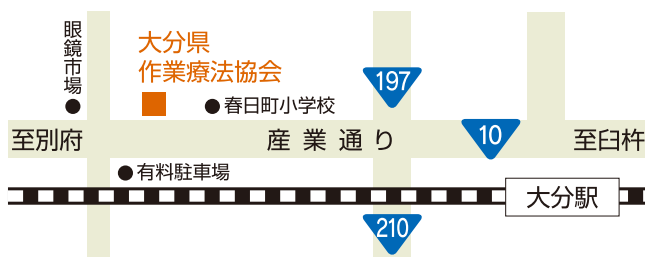


作業療法は“からだ”や“こころ”に障害があり、そのために生活に支障をきたしている幼児から高齢者まで幅広い世代が対象となります。

私たちは、対象者一人ひとりに合わせた心豊かな作業療法の提供を目指しています。



リハビリテーションのことや、作業療法のことで分からなかったり、お困りのことがありましたら、右記までご連絡ください。



### 公益社団法人 大分県作業療法協会

〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル

TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663

<http://www.oita-ot.com/>